



「チーム医療」の紹介

Q 「チーム医療」ってなあに？

A 病院には医師や看護師以外にも、薬剤師、理学療法士、管理栄養士など、多くの専門職と一緒に働いています。そして病院に来られる患者さんの症状や状況はさまざま。「チーム医療」とは、患者さん一人ひとりのニーズに合わせ、安心して安全な医療を提供できるよう、各職種がもっている専門的な知識や技術を活かし、情報共有しながら協力して働くことです。

当院にもいくつかのチームがあり、よりよい医療を提供できるようサポートする体制ができています。



どんなチームがいつ何をしているのかな？早速みてみよう！

令和6年度

外来糖尿病教室

開催場所 松江赤十字病院 6階講堂

開催時間 14:00～16:00

連絡先 松江赤十字病院
糖尿病内分泌内科外来
0852-24-2111(代)



- 第1回 7月3日(水) 足元から糖尿病は忍び寄る
- 第2回 9月4日(水) すこやか会とのコラボ企画 療友の出会いふれ合い交流会
- 第3回 1月29日(水) 明日は我が身 災害への備え
- 第4回 3月5日(水) すこやかに長生きしよう よい管理

令和6年度 健康医学講座

YouTube 配信での開催

- 8月 演題 肝臓内科とお酒の話 講師 副院長 内田 靖
- 10月 演題 赤ちゃんから始めるスキンケア 講師 小児アレルギーエドゥケーター/アレルギー疾患療法指導士 伊豆 理果
- 12月 演題 ①薬しっかり飲んでいきますか？～飲み忘れ・間違い防止の工夫～
②お薬手帳 講師 薬剤部 一同

新規採用医師紹介



血液内科
オオイ ミズキ
大井 水樹

5月より血液内科に赴任となりました大井水樹と申します。皆様へ寄り添った丁寧な診療を心掛けます。

第一小児科
コイケ ダイスケ
小池 大輔

島大病院や島根県中を経て9年ぶりに松江日赤に戻ってきました。子供や保護者が笑顔で過ごせるようにサポートします。

呼吸器内科
アライ カツノリ
新井 健義

この度、呼吸器内科として赴任いたしました新井健義と申します。皆様へ寄り添った医療を心がけて参ります。どうぞよろしくお願いいたします。

- 病院理念……わたしたちは、『人道』の赤十字精神に基づき地域の医療に貢献します。
- 基本方針……
 - ① 地域の基幹病院として、説明と同意に基づく「高度」「良質」な医療を提供します。
 - ② 急性期病院として保健・医療・福祉・介護機関との連携を進め、最善の医療を行います。
 - ③ 救急病院として24時間地域の健康を守ります。
 - ④ 赤十字病院として災害救護に貢献します。
 - ⑤ 教育病院として次世代の医療人を育てます。

松江赤十字病院『患者さまの権利』

1. ひとりの人間として人格と価値観を尊重される権利があります。
2. 医療提供者との相互協力のもと、良質な医療を公平に受ける権利があります。
3. 検査・治療法などの自分が受ける医療の内容について、わかりやすい言葉や方法で説明を受ける権利があります。
4. 説明を十分理解し同意した上で、医療行為を受けるかどうか自分の意志で選択する権利があります。
5. 医療行為の選択にあたって、他の医療者の意見(セカンドオピニオン)を求める権利があります。
6. 診療の過程で得られた個人情報、個人の秘密として厳正に保護され、承諾なしには開示されない権利があります。
7. 自分が受けている医療内容を知るために、診療録の開示を求める権利があります。

私たちが、上に掲げた患者さまの権利を尊重した医療を提供するために、患者さまには次のことをお願いいたします。

- ① 自分の健康に関する正しい情報の提供 ② 医療への積極的な参加 ③ 病院の規則を守ること ④ 研修医、医学生、看護学生などの研修・実習・見学への理解と協力

栄養サポートチーム(NST)

私たちがサポートします!



Q

何をするチームなの?

A

低栄養状態にある患者さんを受け持っている主治医からの依頼を受け、患者さんの栄養状態改善のため NST (栄養サポートチーム) として治療に参加しています。
医師、歯科医師、薬剤師、看護師、臨床検査技師、管理栄養士、言語聴覚士、理学療法士など多職種で意見交換し、最適な栄養療法を提案します!



NSTの活動は2002年2月から開始していて、20年以上も継続しているんだって!

Q

どんな活動をしているの?

A

患者さんの低栄養の原因は、多種多様です。単に食べられないという状況でも、味覚障害、体位、痛みなど身体的要因から、嗜好や食形態、提供量など多くの原因があります。その一つ一つにチームとして向き合い、患者さんの栄養状態改善のためにできることを提案させていただいています。



例えば...

毎週月・金曜日に院内をラウンド。週に1回カンファレンスを行い、情報共有をしています。



患者さん

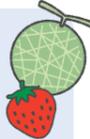
病気は良くなっているようですが、食事がとれなくて心配です。

嗜好に合わせて食事変更が出来るかもしれませんが。原因を探して食べられるようサポートします。



メンバー

食べられない原因は胃や腸の病気だけではなく、ミネラル不足、ホルモンバランス、精神的ストレス、口腔内の衛生環境など、いろいろあります。
無理に食べるのではなく、栄養補助食品の利用もオススメです。手軽に効果的に栄養がとれます。目的に合わせた配合のもの、お好みのフレーバーなど、お気軽にご相談ください。



緩和ケアチーム

私たちがサポートします!



Q

何をするチームなの?

A

がんの診断時から治療と並行して、身体やきもち、仕事や経済的な側面など様々な患者さん・ご家族のつらさを和らげ、「こんな生活を送りたい」「こうありたい」という希望や目標に向けた支援をするチームです。
チームメンバー(医師、薬剤師、看護師、理学療法士、栄養士、社会福祉士、心理士)とともに、主治医や病棟看護師と連携し、診療・ケアを行っています。

Q

どんな活動をしているの?

A

痛みや息苦しさ、不眠、だるさなど体の症状、不安や気持ちが沈むといった気持ちのつらさについて、お話を聴かせていただき、症状にあったお薬を用いて苦痛の緩和を行います。神経ブロック、放射線治療といった専門的な治療も行っています。その他、家での生活(体を動かすことや食事など)に関わること相談もなっております。また、スタッフからの相談を受け、よりよい治療やケアの提供を目指して取り組んでいます。



がん患者さんを担当するスタッフの悩みを聞くこともあるみたいだよ!



例えば...

カンファレンスでは様々な職種が専門的な視点をもって話し合うことで、より良い支援につなげます。



患者さん

症状はあるけど、自分だけじゃないだろうし...我慢した方がいいのかな?

つらさの感じ方はひとそれぞれです。あなたがつらいと感じられたら、我慢しなくてもいいんですよ。夜は症状のせいでゆっくり眠れないことはないですか?



メンバー

「緩和ケア」って何をいつ相談したらいいかわからないといわれることがあります。
“いつもの自分と違うな” “いつも通り過ごせていないな”と感じたら、それは相談どきかもしれません。上手く伝えられなくても大丈夫です。まずは、自分がつらいと感じたら、近くの医療者に「緩和ケアについて話をききたい」とご相談ください。



相談窓口 がん相談支援センター(本館1階) 月~金 8:20~16:50 TEL:0852-32-6901